

明日でⅠ学期が終業します。大きな事故もなく、無事にⅠ学期の終業を迎えられそうです。ひとえに、保護者の皆様、地域の皆様のご協力の賜物と感謝しきりです。ありがとうございました。

明日(7月18日)の終業式では、次のような話をする予定です。37日間の夏休みにたくさんの経験をして8月25日にまた元気に子供たちに会えることを願っています。

Ⅰ学期終業式でのお話

今日でⅠ学期が終業して、明日から37日間の長い夏休みに入ります。

皆さんには、ぜひ夏休みには、たくさんの体験をしてほしいと思っています。

「バーチャル」という言葉を知っていますか？

本当はそこにはないけれど、まるでそこにあるみたいに見える世界のことです。

今、ネット上にはバーチャルな世界があふれ、皆さんが夢中になっているゲームの中にもバーチャルな世界が満載です。

エアコンの効いた涼しい家の中に居ながらにして、冒険したり、誰かに出会ったりできるのは、なんて手軽で楽しく素敵なことなのでしょう。私が皆さんくらいの頃は、そのような機械もありませんでしたから、少し羨ましい気持ちがしないでもありません。

私は、子供の頃の夏休みには、遠い九州というところに住む母方のおじいさんとおばさんの家に遊びに行くのが常でした。

忘れもしない5年生の夏。どういうわけか、私は2歳年下の妹を連れて、たった二人きりで飛行機に乗って遊びに行くことになりました。大冒険です。

大好きな漫画の本を買ってもらって、それを持って乗り込みましたが、読んでも読んでも話の内容が頭に入ってきません。

飛行機が揺れると、泣きそうになる妹をなだめながら、自分も泣きそうになりました。

飛行機を降りて、空港で待っていてくれた伯父さんと会えた時には、心の底からほっとしたのを覚えています。

あちらの家では、毎日長い坂道を下りきったところにある川に、毎日いとこたちと遊びに行き、家に帰ってくるとスイカを食べ、昼寝をして、夕飯を作っている伯母さんのお手伝いをし、広間でいとこ達と川の字になって寝ました。

今でも昨日のことのよう、鮮明に思い出します。

飛行機の窓から見た白い雲と遠ざかる小さな街。

川に向かう坂道の木陰の青いにおい。

からからの喉を通るスイカの甘い汁。

真っ暗な広間に聴こえる虫の声。

透き通った川の冷たい流れ。

別れの時のおじいさんとおばあさんの涙。

同じものをもしバーチャルで見たり聞いたり感じたりしたとしたら、40数年経った今、果たして同じように覚えていられたらと思う。

皆さんには、バーチャルでなく、目で、鼻で、口で、耳で、肌で、心で感じられる体験をぜひ、この夏休みにしてほしいと思っています。

健やかに楽しく、意義のある夏休みを過ごしてください。